

◆二十四番（松井英雄君） 二十四番、公明党長野市議員団、松井英雄でございます。

市民協働のまちづくりについて、二点お伺いいたします。

まず一点目は、冬期間の除雪について伺います。

十月三十日、除雪委託業者と長野市で除雪会議を開いたと報道がありました。本年二月の大雪では、業者の皆様、市職員の皆様には不眠不休の除雪作業に当たっていただいたにもかかわらず、多くの問合せが市民の皆様からありました。何が原因か、もちろん通常では考えられなかった記録的な大雪が原因の一つと考えられます。

市民の皆様からは、家の前の道に除雪がまだ来ないなどの問合せも多くありました。除雪も、市民の皆様の協力をいただかないと、行政だけでは限界があります。

除雪会議では、一次路線では積雪十センチメートルを目安に出動し、二次路線は二十センチを目安に一次路線の除雪完了後、通勤、通学など歩行者が多い歩道については十五センチなどでの自主出動、あるいは要請により出動とのことですが、先ほどの市民の方のように、いつまでたっても除雪に来ないなど不安、不満もあります。

そこで、行政は、先ほどの一次、二次路線、歩道はこの場所で、この場所以外は市民の皆様の協力で除雪してほしいなど、一目で分かる情報が必要と考えますが、御所見をお聞かせください。

その際、以前、緑化活動でも触れましたが、市道はやるが、県道、国道は管理者が違うのでといったことは市民には関係ないので、県との連携も必要と考えますが、御所見をお伺いいたします。

（二十四番 松井英雄君 質問席へ移動）

◎建設部長（藤田彰君） 市では、本年二月の大雪の経験を踏まえ、また、六月から実施した住民自治協議会のアンケート調査結果を基に除雪計画の見直しを行い、十月末に今年度の計画を策定し、十一月一日から除雪体制をしいております。

御提案の市民の皆様への事前の情報提供は、大変重要と考えております。除雪計画については、昨年まで支所を通じて区長さんへ資料配布し、希望の地区への説明を行っていましたが、今年はこれに加えて、除雪体制や除雪指定路線図、排雪場所、生活道路の除雪への支援策などについて、十一月末に市のホームページへ掲載するとともに、広報ながのの十二月号で除雪についてのお願いや、市が行う除雪体制などについてお知らせをいたしました。また、新たに地区の公民館へ除雪指定路線図を掲示するなど、きめ細かな情報提供に努めております。

また、大雪時には市のホームページやツイッターを活用し、除雪状況などについて随時情報発信してまいりたいと考えております。

次に、県との連携であります。県では今年度から、各建設事務所単位で国、県、市町村による除雪連絡会議を設置し、情報共有と連携を強化することといたしました。

市では、長野建設事務所管内の各道路管理者と連携の上、大雪時にはバス路線や病院へのアクセス道路などを除雪優先路線に指定し、優先して除雪を行う他、排雪場所の共同利用、除雪状況の情報共有などの連携強化を図ってまいります。

県道と市道の除雪の相互乗入れ―これは道路の状況に応じて市が県道を除雪して、県が市道を除雪するということですが、これについては除雪の連携や効率化を図る上で、大変有効と考えております。

しかし、調整が必要な課題もあり、今年度は実現に至っておりませんが、今後も引き続き検討を進めてまいります。

◆二十四番（松井英雄君） ありがとうございます。

公民館などへの路線図の貼り出しなどということでありますが、できれば行政区などに回覧板などで回せるようなそのような、おらほうの地域の地域公民館はここで、うちはここで、この道は駄目だとか、そんなような感じで、一目で分かるようなものがあればいいと思いますので、また御検討をよろしくお願いいたします。

二点目は、情報通信システムによる市民協働のまちづくりについてお伺いします。

千葉市のちばレポ、愛知県半田市のマイルポはんだとして、市民が日常生活の中で見つけた道路の陥没、ごみなどの問題箇所をスマートフォンのアプリを活用して担当課に知らせ、ウェブ上で共有できるシステムを導入いたしました。例えば、市民が横断歩道の白線が消えているなどの問題箇所を発見したら、アプリを起動し、その場で撮影すると、GPSで自動的に場所の情報が特定され、白線を塗り替えるなど簡単なコメントを書き込めば、ボタン一つで写真と要望が正確に担当課に伝わります。担当課は対応を検討し、経過を投稿者に返信。最終的に問題が解決した場合、改善後の写真を載せる。市民の利点は、市役所、支所まで行かなくてよい。開庁時間以外に伝えられる。言葉でうまく伝えられなくても大丈夫などあり、行政側もパトロールや点検の限界もあり、市民からの指摘できめ細かい対応が可能となります。

また、写真や動画により、現地に行く前におおよその状況をつかめるため、初動の効率化も図られるかと思われまます。また、投稿者も登録制にしておけば、ひぼう中傷などの投稿も防ぎやすく、投稿者登録が増えれば、市民のまちづくりへの意識も深まってきているとの一つのバロメーターとなり、正に市民協働のまちづくりと言えると考えます。さらに、先日の神城断層地震、二月の大雪、ゲリラ豪雨など、災害時においても瞬時に現場にいる市民から情報が入ります。

長野市のツイッターは、神城断層地震でも十件ほどしか情報を流しておらず、意味を成していないなどの声もあります。長野市ツイッターでは、個々の御意見への返信などは原則行いませんので、御了承願いますとあり、これでは冷たいし、一方的過ぎると感じます。もう一步ツイッターを改善し、この情報通信システムを使った専用アプリシステムを導入すべきと考えますが、御所見をお伺いいたします。

◎企画政策部長（市川専一郎君） お答えをいたします。

御承知のとおり、本市では市行政における問題点等につきましては、お気付きの市民の皆様から電話やメールなどで担当課へ直接連絡をいただき、状況をお聞きした上で対応を図る場合や、区長など地域の関係役員を通して担当課へ御連絡をいただく場合がございます。

さらに、電子メール版を含めた市長への手紙でございます、みどりのはがきでお知らせいただく場合がございますが、内容によってはメールや手紙でお返事を差し上げる前に、担当課からお知らせいただいた方に直接連絡を差し上げるなど、迅速な対応を行ってございます。

こうした対応を行う上で、御紹介いただきました千葉市や半田市が導入しております問題箇所の状況

や位置をスマートフォンのアプリを活用し、正確にお伝えいただく方法は、状況把握の効率化が図れるなどのメリットがあると思います。

一方で、御指摘がありましたようなひぼう中傷、あるいは、なりすましを防止する工夫も必要となり、また、登録制のため匿名で情報を提供されたい方を含め、広く御意見を頂く面では制限が生じるとともに、プライバシー侵害などの不適切な投稿が一定期間公開される可能性もございます。

先進である千葉市と半田市は、それぞれ実証実験を経て、別々のシステムを採用されているようですが、行政と市民が課題を共有し、効率的に課題を解決することを目指す協働の取組として、また、できるだけ広く参加いただける安全なシステムを構築する必要があります。

現在、新第一庁舎建設に合わせまして整備を進めております総合防災情報システムでは、携帯電話のメール機能を使い、災害現場からの状況報告、画像等の情報、さらにGPS機能を有する携帯電話であれば位置情報を収集することができます。加えまして、スマートフォンやタブレット端末を使い、現場の災害対策本部でシステムの情報を共有することが可能となります。これらの機能につきましては、防災業務のみならず、通常業務におきましても活用できるものと考えており、通常業務での運用方法や活用策を研究してございます。

また、本市のツイッターへの御指摘をいただきましたが、代表アカウントでは緊急情報を初めとする情報発信を目的としており、返信は行わないこととしてございます。しかし、市民を初めとする多くの皆さんとの双方向のコミュニケーションを図る場合には、担当課が目的に沿って新たなアカウントを設けることにより可能としてございます。

SNSにつきましては、LINEなど新たなサービスが広まるなど日進月歩であり、どの方法で、どのような運用を行うべきか、常に関心を持って研究をしてみたいと考えてございます。

以上であります。

◆二十四番（松井英雄君） 災害時の災害本部では、様々な形で即時に情報を共有しているということですが、先ほども言ったように、さきの神城断層地震ではツイッターは十件ほどということで、本当に市民に伝わりませんでした。長野県のホームページにおいては、災害時には災害パターンにがらっと変わって、情報を市民、県民もとることができるということでもあります。是非とも、災害時あるいは道路管理、様々な部分で御検討いただければと思います。

続きまして、地域おこし協力隊について伺います。

本年より長野市が導入した地域おこし協力隊は現在十一名。それぞれの地域で活躍され、大変好評と伺っております。地域おこし協力隊は、総務省が二〇〇九年度に創設した地方への定住支援策として、人口減少や高齢化に悩む自治体が都市住民を協力隊員として受け入れ、最長三年の任期で地域おこしに従事してもらい、定住につなげる事業です。この制度で、最長三年間の任期を終えた隊員がそのまま現地に残留する定住率は、全国平均で六割との結果も出ております。

一方で、受入地域に定住しない人の中には、活動経験を生かして他地域の市町村で活躍する人もいますが、移住地になじめないまま離れる人もおり、自治体は地元の魅力を十分に伝え、定住に結び付けていく努力を重ねるべきと考えます。

隊員の任期の三年間はあっという間です。長野市では、具体的にどんな定住支援を地域おこし協力隊にしていくのか、お聞かせください。

協力隊の活動は、生活支援、コミュニティ再生、価値創造活動と、段階的に進めていくのが望ましいと考えます。このうち、住民との信頼関係を醸成する生活支援や、伝統的な祭りの復活などといったコミュニティの再生の活動まではある程度取り組むことができます。収入増を生み出す価値創造活動が最も難しいと言われております。

また、長野市の隊員も、フェイスブックなどで他地域の協力隊員のフェイスブックを紹介するなどしていることから、他地域の隊員の活動も気になっていることも事実であり、周辺自治体とも連携して、隊員同士が問題意識や今後の進路について情報交換したり話し合える場として、長野県が交流会を開催しており、長野市の隊員、担当者も参加しておりますが、交流会参加の効果などについて御所見をお伺いします。

また、国でも地域おこし協力隊を三倍に増やしたいと考えていますが、長野市では来年度に向け、新隊員の募集などは行うのでしょうか、お聞かせください。

◎**地域振興部長**（原敬治君） それでは、お答えいたします。

地域おこし協力隊でございますが、四月に着任し、八か月が経過した現在は、地域に溶け込みながら地域の課題に基づいた活動を中心に取り組んでおります。また、定住そして就業に必要なスキルを身に付けるために、先進的な取組を行っている地域や団体を視察したり、また、信州大学主催の中山間地域活性化プロフェッショナルゼミや、県が主催いたします地域に飛び出せ、信州元気づくり実践塾、そのようなものに参加し、地域の環境や農産物を生かした農村交流、そして地域の特産品を都会で販売するノウハウなどを学んでおります。こうした活動に必要な旅費などにつきまして、市の予算から支出するなどの支援をしているところでございます。

また、定住を促進するためには、協力隊員が抱えている悩みの解決も重要であります。市では、月に一度、協力隊員が一堂に会した情報交換会を実施し、隊員が地域で孤立しないよう話し合いを通じて課題解決を図ったり、隊員への支援策を講じているところでございます。

次に、長野県が主催した地域おこし協力隊の交流会参加の効果についてお答え申し上げます。

五月には初任者研修会に出席し、協力隊としての基礎知識を身に付けるとともに、七月には下諏訪町で開催された地域おこし協力隊の交流会に参加いたしました。これは初任者研修とは異なり、二年目、三年目の隊員も参加しております。情報交換会や分野別による隊員の意見交換が行われました。情報交換会では、実績を残している他市町村の隊員と交流することで隊員同士のつながりができ、相談相手としてアドバイスをもらったりしております。また、似た活動を行っている隊員が開催するイベントなどに参加しまして、新たな知識を身に付けられたという効果も生んでおります。

交流会に参加した他市町村の隊員が主催するイベントに本市の隊員も出席したわけでございます。チーム長野市として参加しまして、長野市の地域特産品の販売、PR、そういうものもできたという成果も上げられております。

また、昨年開催された交流会には、市の担当職員が参加いたしました。行政と隊員との関わり合いが疎遠にならないように取り組むことの必要性を強く感じましたことから、先ほど申し上げました担当職員と隊員との情報交換会や、隊員と担当課長との個別面談の場を設けるなど、隊員へのサポート体制の構築ができたところでございます。

次に、来年度の募集についてお答え申し上げます。

来年度は、未導入地区のうち、住民自治協議会から要望のありました松代の豊栄・西条、七二会、信更、小田切、芋井、中条の六地区で募集を予定しております。

今後、市のホームページでのPRを初め、移住・交流推進機構が東京で開催します移住・交流&地域おこしフェアや、長野市が単独で東京で開催する相談会等で募集を行ってまいりたいと考えております。

国では、平成二十五年度末で九百八十人いる協力隊員を平成二十八年度までに三千人に増やすとしております。全国でも隊員の導入に向け、更なる広がりを見せていることから、地域ニーズに合った優秀な隊員の採用ができるよう積極的に募集活動を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆二十四番（松井英雄君） 昨日、総務省が協力隊員の備品、あるいは定住、起業に対する支援として、現状の四百万円プラス百万円ということを打ち出しております。是非、この長野市に現在いる十一名が、国では六割ほどが定着ということでもありますけれども、百パーセント定住して、地域になじんで、地域が元気になるような、そのような取組を是非ともお願い申し上げまして、私の質問を終わります。